

# 読売教育ネットワーク

社会はまるごと学校——  
すべての大人が先生です



教育ネットワークの公開出前授業で、ろ過した無色透明の液体を生徒に見せる東レの峯岸進一さん。生徒たちは水資源の大切さを学んだ（2014年12月13日、東京都杉並区立和田中学校で）

## 読売教育ネットワーク

2015.2  
Vol. 2

杉並区立和田中学校で4企業1大学が公開授業	2・3
大阪・羽衣学園高校で3企業が出前授業	3
都立西高校で4校対抗・即興型英語ディベート大会	4
札幌聖心女子学院高校で国際バカロレア公開授業	5
読売教育3賞決まる	6
全国高校ビブリオバトル 初代チャンプ決定	7
ティーン未来フォーラム2014開催	7

羽衣学園高校



①生徒たちにお札の教え方を教えるりそな銀行の大北さん(右)  
②手回し発電機の説明をする関西電力の竹村さん



大阪府高石市の羽衣学園高校では1月14日、1年の5クラス190人を対象に、りそな銀行7人が出前授業を行った。読売教育ネットワークの出前授業は関西では初めて。

お札数えるの難しい!

りそな銀行の授業では、久米田支店の丹保仁、大北綾香さんと、貝塚支店の有働直起、泉大津支店の松岡興平さんが二組に分かれて授業。預金、融資、為替という銀行3大業務の説明後、研修用模擬紙幣を配ってお札の数え方「札勘(さつかん)」を指導した。

2種類の札勘の実演後、生徒たちも挑戦。実際に数えて発表すると、間違えたグループもあった。「1億円のお札の重さは？」、「お札になった動物は？」などクイズも交えた授業に寺家未都(みさと)さんは「銀行は堅い感じだと思っていたけれど、聞きやすかった」と笑顔で感想を話した。

「電力会社の仕事とは」と題した授業では、関西電力大阪南支店の竹村耕一、嶋田良子さん

が入社後に取り組んだ営業、業務、広報の仕事の説明。20年前の阪神大震災で一時260万戸が停電したが、「6日後に応急送電ができるようになった」と当時の先輩社員たちの努力を紹介、「震災の教訓を忘れてはいけない」と締めくくった。

読売新聞中高生新聞編集部の水瀬章人記者は、新聞記者の仕事について話した。仕事で使うパソコンやカメラなど七つ道具を挙げた上で、「特に取材ノートは、次の取材のネタのヒントになることもあり、これだけは捨てられない」と強調した。

東日本大震災の取材経験や読売中高生新聞の企画の裏話も披露。最後に「今のうちにたくさん友人を作り、本を読み、夢中になれるものを見つけよう」とアドバイスした。



為替レートの変動をわかりやすく説明する野村ホールディングスの田中さん(中央)

和田中学校では2014年12月13日、1〜3年生の全11クラスで一斉に公開授業が行われた。講師を務めたのは、ネットワークに参加する野村ホールディングス



③理想の「緊急災害速報」が実現するまでをドラマチックに語る富士通の濱田さん  
④「将来設計」について講義した日本生命の藤山さん  
⑤世界のグローバル化について語る東京外語大の岩崎教授



ガス、日本生命、東レ、富士通の4企業10人と、東京外国語大学の岩崎稔教授の計11人。富士通CSR推進室長の濱田真輔さんは、「とぎれない災害速報システム」をテーマに3年生に授業を行った。濱田さんは気象庁が発する「緊急災害速報」を放送局に迅速確実に送信するプロジェクトに取り組んできた。「君がプロジェクトの責任者だったら、地震や津波から人命を守るために何を考えるだろうか?」と問いかけてディスカッションを行い、仕事の社会的使命について考えさせた。

濱田さんは「大きな夢を持ち、いつも何か面白いこと、楽しくなることを考えよう」「いま動いているルールは過去の人が作ったもの。明日のルールを作るのは君たちだ」という言葉を生徒たちに贈って、授業を締めくくった。

理科室を使って2年生に授業を行ったのは、東レ水処理・環境本部メンブレン2部部長代理の峯岸進一さん。「水溶液のろ過と世界の水不足問題」がテーマだ。写真も表紙に!!

峯岸さんは、青色の絵の具と食塩を溶かした水を「ろ過」する実験をした。使った素材は3種類の浄水器や人工腎臓に用いられる直径0.01ミリの超微細孔の中空糸膜、さらに微細な1ナノメートルの逆浸透

膜。それぞれろ過できるものが違うことを目で示した。授業を受けた鈴木伸嘉君は、「環境に関わる仕事に興味があったので、将来のことを具体的に考えるきっかけになりました」と満足そうな表情。そのほかの東レの講師は、「地球温暖化問題」「素材が世界を変える」といったテーマで2年生の別のクラスを教えた。

野村ホールディングスは、金融リテラシー推進課長の田中修さんら3人の講師が3年生の3クラスで為替をテーマに授業を行った。

「君が3万円を持っていて仮定して、ドルと交換したらいくらになるか?」。授業では大きなサイコロを転がし、出目によって交換レートが変わるゲーム仕立て。手にするドルの金額が毎回変わり、為替相場の動きを生徒たちに実感させた。

1年生に授業を行ったのは、日本生命CSR推進室の藤山富美恵室長ら3人。「将来設計」のタイトルで「就職」「結婚」「親になる」「退職」「老後」など人生の節目を解説した。岩崎教授は、2年生に「グローバル化」と「国際社会」をテ

杉並区立和田中学校

明日を作るのは君たちだ  
世界とつながる熱血教室

企業と学校の交流を図る「読売教育ネットワーク」の出前授業が、東京と大阪で相次いで行われた。東京は杉並区立和田中学校(末吉雄二校長、生徒数399人)、大阪は羽衣学園高校(馬場英明校長、生徒数1006人)。企業や大学の第一線で活躍するプロフェッショナルの熱い授業に、生徒たちは聴き入った。

読売教育ネットワークの出前授業は関西では初めて。

## 札幌聖心女子学院高校で国際バカロレア公開授業



裁判員制度に関する英語劇について、アイヴァン・トド教諭（左から3人目）と話し合う生徒たち

札幌聖心女子学院高校で、国際的な大学入学資格、国際バカロレア（IB）のカリキュラムなどの研究成果を発表する公開授業が2014年12月4日に行われた。生徒による英語の模擬裁判劇も教室で上演され、全国の学校関係者ら約100人が視察した。

# 無罪と有罪でバトル

IBは欧米の一流大学など約2000校が認定する入学資格。同校は12年、文部科学省の「国際バカロレアの趣旨を踏まえた教育の推進に関する調査研究」の指定を受け、14年度が最終年度。思考力、探究心などの育成を目指すIBのカリキュラムや指導方法の調査研究を行った。

「Come to your senses! He's talking us into not guilty. (目を覚ませ！ あいつは我々を無罪意見に誘導しようとしてるんだ)」

「This is not a game. His life will be influenced by our judgment. (これはゲームじゃない。被告の命は我々の判断にかかっているんだ)」

公開授業では、3年生の生徒たちが裁判員裁判の英語劇を披露。2014年3月に再審開始が決まった「袴田事件」の発生時（1966年）に、裁判員制度があったらという想定で、生徒11人を裁判員役として2グループに分け、1つは有罪、1つは無罪と結論することを前提にシナリオを作成、自ら演じた。

「無罪」グループでは、6人のうち5人が有罪としていたのを、一人の裁判員の説得で逆転無罪判決に。元ボクサーの被告を暴力的な人物と決め付ける雰囲気の中、「証拠として示された服は被告には小さすぎる」などと検察側の不備を指摘した。一方、「有罪」グループでは、当初は無罪の意見が優勢だったが、逆に男性の経歴への偏見がふくらみ、有罪に傾いていく。

**自分と異なる考え方にもそれぞれの正しさがある**

授業のねらいは、IBの理念である「人が持つ違いを違いとして理解し、自分と異なる考えの人々にもそれぞれの正しさがあると認める」姿勢を養うこと。「有罪」グループ内で最後まで無罪を主張する役を演じた絹谷佳子さんは、「個人的な意見とは別に、物事を逆の視点から考える手法を学べた」と話す。

指導したアイヴァン・トド教諭は「裁判員制度とIBの理念は、証拠や他人の意見を批判的に見て判断する部分で共通点がある」と説明する。

公開授業はほかに、倫理などが行われた。阿部益太郎校長は「世界に通用する能力を育てるため、今後もIBの理念を授業に生かしたい」と話していた。

## 都立西高校で4校対抗・即興型ディベート大会



英語で相手チームの主張に疑義をぶつけ合う日比谷高校と西高校のチーム

「Shopkeeper should be allowed to post suspected shoplifters faces online」「We don't believe so!」。高校生たちが、身振り手振りを交えて英語で激しく応酬する。東京都立西高校で行われた「即興型英語ディベート大会」では、白熱した議論が繰り広げられた。

大会が行われたのは2014年12月13日。参加したのは西高校のほか都立日比谷、埼玉県立浦和、神奈川県立湘南の計4高校、13チーム39人。大阪府立大学大学院の中川智晴助教の呼びかけで、文部科学省の助成を受けて開催された。校長同士の交流もあって実現した初の試みだ。

「即興」というだけあって、テーマはその場で提示される。肯定側、否定側に分かれたチームがディベートの前に論理構成と英語での表現方法を考えるが、準備時間はたったの15分間。どのチームも電子辞書を駆使して猛烈な勢いで英訳していく。だが、準備した英文の全てが役に立つわけではない。問われるのはアドリブの力だからだ。

**アドリブが出てこない！ 頭脳沸騰、無情のゴング**

最終第3ラウンドのテーマは、「店主は万引き被疑者の顔をインターネットに公開することを許可されるべきだ」だった。「ネットに掲載すれば再犯防止につながる」。肯定派・日比谷高の攻勢に対し、西高は「

疑者であっても個人情報を守らるべきだ」と反論し、一歩も譲らない。

両チームは、相手のスピーチの途中で「待った」と疑義の質問をぶつけることができる。そのたびに議論は刻々と変化し、予想外の状況に対応した英語を使わなくてはならない。両校の生徒は懸命に言葉のパンチを繰り出しつつも、次第に疲労の色を濃くしていった。

ジャッジが終了を告げた瞬間、思わず机に突っ伏す生徒たち。「すごく面白い！ でも英語が出てこない……」と西高の平野朗子さんが悔しがれば、チームメートの遠山夏美さんも頬を紅潮させたまま、「いくら準備しても、アドリブで話せない」と厳しい。対する日比谷高の萩原優真君は、「英語が理解できず、議論がかみ合わない部分があった」と残念そうだった。

そんな生徒たちを見守りながら、西高の宮本久也校長は、「英語を話せないもどかしさ、恥ずかしさで彼らの思考は沸騰寸前のはず。でも、それを体験し、克服すれば、論理的思考力と英語力が自分のものになるんです」と大会の意義を強調した。（詳細は読売教育ネットワーク・ウェブサイトで紹介しています）

# 打て！ 英語のパンチ

「おとあーと研究室」は8月23日、東京都練馬区東大泉の大泉学園ゆめりあホールで「親子で楽しむ夏のスペシャルおとあーとコンサート」を開催する。新作ライブイベントも披露。完全予約制で大人1,000円、子ども500円。6月1日から予約の受け付けを開始予定。問い合わせは同研究室までメール（otoart@live.jp）で。

「おとあーと研究室」は8月23日、東京都練馬区東大泉の大泉学園ゆめりあホールで「親子で楽しむ夏のスペシャルおとあーとコンサート」を開催する。新作ライブイベントも披露。完全予約制で大人1,000円、子ども500円。6月1日から予約の受け付けを開始予定。問い合わせは同研究室までメール（otoart@live.jp）で。

### 親子で楽しむ音楽とアート

音楽とアートを通して親子交流を進める

### 「京都学講座」で特別企画

大学コンソーシアム京都は3月7日午後1時半から、「京都学講座」開講15年目特別企画「京の四季とまつり」を京都市下京区のキャンパスプラザ京都で開催する。2015年度に開催する全14回の公開講座に先立つオープニング企画で「京のまつりと

賑わい」の魅力についても伝える。申し込み不要、参加費無料。定員は先着順280人。問い合わせは大学コンソーシアム京都「京カレッジ」担当（電075・353・9140）。

このコーナーでは、読売教育ネットワークに参加する全国の小中高校、大学、企業・団体からのお知らせを紹介します。掲載申し込みは、随時受け付けています。

### お知らせ

INFORMATION

### 東北大学でサイエンスカフェ

東北大学は2月27日午後6時から、仙台市青葉区の同大片平キャンパス北門会館2階エスパスで第113回サイエンスカフェを開催する＝写真は昨年の会場＝。「解決困

難な社会問題を考える」のテーマで、講師は同大学院農学研究科の木谷忍准教授。飲み物を片手に気軽にサイエンスについて語り合う企画で、木谷講師による30分間の研究成果発表の後、聴講した同大の教員や学生がテーブルごとの議論を30分行い、最後にテーブルで出た質問に講師が答える形式。参加無料。問い合わせは同大社会連携推進室（電022・217・5132）。





山根寛さん（山根さん提供）



英語の原文は<http://the-japan-news.com/news/article/0001866571>で3月いっぱいお読みいただけます。



## 海外で学ぶ・リレーエッセー② 「スタンフォードにYes!」

筑波大付属駒場高校卒・スタンフォード大学2年

スタンフォード大学では毎年約1万3000種類の授業が行われる。経済学、物理学から、携帯電話での写真撮影やムエタイまで、題材も様々だ。こうした環境にいと、考えたことも

なかった分野の授業にチャレンジできる。一昨年、秋学期に受講した「即興劇の基礎」もそんな授業だった。今までの人生で一、二を争う素晴らしいものだった。

山根寛さん



授業で行ったゲームの一つに「Yes!」というものがあつた。ルールは簡単。二人ずつに分かれ、一人が何か誘いを持ちかけると、もう一人は、それに対して「Yes!」と答える。それだけだ。

「木登りをしようよ!」  
「Yes!」  
「結婚しようよ!」  
「Yes!」  
どんなにばかげた誘いだろうと、演者たちは仲間たちの申し出を実現しようと奮闘する。台

本がないのに、ステージは自然に一つの方向にまとまっていく。一見難易度が高そうな劇が、単純なシステムで成立していることに驚いた。

何より感銘を受けたのは、この単純なゲームが普段の生活に活用できると気づいたことだ。自分がいかに「No!」という言葉ばかりを発していたかを痛感したのだ。

批判的思考力が重視される学問の世界に身を置くうち、いつの間にか新しい提案やアイデアに反論する癖がついていた。これまでの自分は「Yes!」と「No!」という言葉を、未熟さや浅はかさ象徴するものと考えていたのかもしれない。

斬新なアイデアを「No!」

と没にするのは、現状維持という意味では安全策だ。しかし、どうすればその提案を実現できるかを考えた方が、より建設的ではないだろうか?

リベラルアーツの教育は毎日新しい挑戦をもたらしてくれる。これからの大学生活で、どのような機会を提供してくれるのか、楽しみでならない。(会報編集部抄訳 The Japan News 2014年10月9日)

海外留学を目指す高校生に進学支援を行っているNPO法人「留学フェロシッパ」のメンバーが、海外のキャンパスライフをリレー連載します。留学フェロシッパの詳細はウェブサイト(<http://yu-fellow.org>)へ。



初代チャンピオンに輝いた中村朱里さん(右)。本の魅力を伝える熱弁が観客を魅了した。

高校生が愛読書の魅力を5分間で紹介し、どの本が一番読みたくなったかを聴衆の評価で競う「全国高等学校ビブリオバトル2014」の決勝大会が1月11日、東京都千代田区のみより大手町ホールで開かれた。活字文化推進会議主催、読売新聞社主管、文部科学省など後援。ビブリオバトルは新しい形の読書推進ツールとして教育関係者の関心を集め、中学、高校、大学や公共図書館での開催例が増えているが、高校生の全国大会は初めて。

この日は9つの地区大会などを勝ち抜いた16人が出場。4グループに分かれ準決勝を行い、関東・甲信越地区代表の鎌倉女学院2年中村彩音(あやね)さん、東海地区代表の日本大学三島2年中村朱里(あかり)さん、中国地区代表の浜田商業3年榎一真君、四国地区代表の新田青雲中等教育学校5年(高2)北尾奈央さんが決勝に進出した。

決勝では、約400人の聴衆が投票し、「冷たい校舎の時は止まる」(辻村深月著、講談社)を取り上げ、「ラストの展開は鳥肌が立ちます」などと紹介した日本大学三島の中村さんが初代チャンピオンに輝いた。準優勝は、「わたしが正義について語るなら」(やなせたかし著、ポプラ社)を取り上げた榎君だった。



海外取材した高校生が同世代に提言する「読売中高生新聞 ティーン未来フォーラム2014」(三菱商事特別協賛、外務省、マレーシア大使館後援)が2014年12月26日、東京都千代田区のみより大手町ホールで開かれた。

数学者で大道芸人のピーター・フランクルさんが「真の国際人になるには」をテーマに講演。その後、同年夏にマレーシアとシンガポールで、液化天然ガスの基地などを取材したティーン特派員8人が提言を発表した=写真=。大妻高校2年の黒川瞭子さんと海陽学園海陽中等教育学校4年(高1)の矢崎佑磨さんは「エネルギーの安定供給と新エネルギー開発について理解を深めよう」と提言。残る6人も「日本式ビジネスを目指そう」「文化・民族の多様性に敬意を払おう」「コミュニケーション能力を高めよう」と呼びかけ、中高生ら約300人が耳を傾けた。

## 高校生8人が提言 ティーン未来フォーラム2014

歴史に学び、読書の大切さを考えるシンポジウム「戦国武将と読書」(東京都、公益財団法人文字・活字文化推進機構主催、活字文化推進会議、読売教育ネットワーク特別協力)が3月22日午後3時から、東京都文京区の東洋大学・井上円了ホールで



小和田さん



中川さん



本郷さん

## 読書の大切さ、歴史に学ぼう

「戦国武将と読書」シンポ 3月22日開催

開催されます。シンポジウムでは、NHK大河ドラマ「軍師官兵衛」などで時代考証を担当した小和田哲男・静岡大学名誉教授が「戦国武将と読書」をタイトルに基調講演。

■フォーラムの応募方法■ 定員500人(学生優先)、入場無料。はがき(〒101-0005)1 東京都千代田区神田神保町3の12の3 文字・活字文化推進機構「センドク」係)か

アクス(03・5211・7285)で①郵便番号、住所②氏名③年齢④職業(学校名、学年)⑤電話番号⑥申込人数を記入の上、応募して下さい。同機構のホームページ(<http://www.mojikatsujin.jp>)からも申し込みを受け付けます。応募多数の場合は抽選、開催日の2週間前ごろに結果をお知らせします。問い合わせは同機構(03・3511・7305)。



## 高円宮杯英語弁論大会

栄冠は広島県の鈴木君に

高円宮杯第66回全日本中学校英語弁論大会(読売新聞社、日本学生協会基金主催、外務省、文部科学省、NHKほか後援、コカ・コーラ特別協賛)の決勝大会が2014年12月13日、東京都千代田区のみより大手町ホールで開かれ、広島市・広島学院中3年鈴木健斗君が写真真実が高円宮杯を手にした。2位は神奈川県鎌倉市・栄光学園中3年中嶋勇太君、3位は名古屋・金城学院中3年尾島百合子さん。各都道府県で予選大会を勝ち抜いた代表生徒151人が決勝大会に出場。上位27人が決勝大会に進み、7位までの入賞者が決まったほか、協賛各社から賞が贈られた。

大会後には、帝国ホテルで記念レセプションが開かれ、上位3人の生徒が受賞スピーチを披露した。



レジオ中1年高田愛弓さんがそれぞれ選ばれた。今回は全国から31193名の応募があり、とりわけ海外からは、前回に比べて約200点多い約7000点の応募があった。

## 小・中学校作文コンクール

野口さんら3人文科大臣賞

第64回全国小・中学校作文コンクール(読売新聞社主催、文部科学省、各都道府県教育委員会後援、JR東日本、JR東海、JR西日本、イーブックイニシアティブジャパン協賛、三菱鉛筆、ベネフィット・ワン協力)の中央表彰式が2014年12月6日、高円宮妃久子さまをお迎えし、都内のホテルニューオータニで開かれた。

文部科学大臣賞には、小学校低学年の部で千葉・茂原市立豊田小学校3年野口結菜さん、写真真実が、小学校高学年の部では東京・青山学院初等部5年上杉魁人君が、中学校の部では静岡・静岡サレジオ中1年高田愛弓さんがそれぞれ選ばれた。

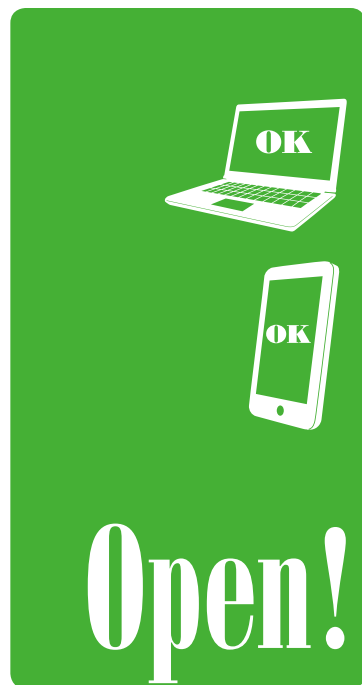
## 日本学生科学賞

総理大臣賞は増井君らに

第58回日本学生科学賞(読売新聞社主催、科学技術振興機構共催、旭化成協賛)中央最終審査が2014年12月22、23の両日、東京都江東区の日本科学未来館で行われ、中学、高校それぞれで内閣総理大臣賞など各賞が決まった。同月24日には秋篠宮ご夫妻をお迎えして中央表彰式が行われた。内閣総理大臣賞には、中学校の部で東京都立小石川中等教育学校1年の増井真那君、写真真実が、高校の部では愛媛県立長浜高校チーム・ニモが輝いたほか、計30点が文部科学大臣賞、環境大臣賞、科学技術政策担当大臣賞、読売新聞社賞、旭化成賞などに決まった。

同賞は地方の予備審査を経て最終審査には中学校で15点、高校で14点が残った。研究発表ブースを設けて、2日間にわたり審査委員に研究内容を説明した。





## 読売教育ネットワークのウェブサイト開設

読売教育ネットワークのウェブサイトが1月オープンしました。ネットワークに参加している企業や学校、団体の活動やお知らせ、出前授業の情報などをパソコンやスマートフォンで閲覧できます。参加企業・各校の出前授業の募集要項のほか、過去の出前授業の実施報告を参考にすることもできます。サイトでは、ネットワークへの新規参加者（小中高校、大学、企業・団体、個人は教職員と司書）も受け付けています。参加すると、出前授業の募集や申し込み、読売新聞からのプレゼントに応募できます。サイトを通じた情報発信も可能です。サイトのアドレスは（<http://kyoiku.yomiuri.co.jp/>）です。ぜひ一度ご覧ください。



## 「戦国武将と読書」シンポジウム 3月22日 開催

歴史に学び、読書の大切さについて考えるシンポジウム「戦国武将と読書」（特別協力・読売教育ネットワーク）が3月22日、東京都文京区の東洋大学・井上円了ホールで開かれます。参加申し込みの詳細は6面参照。